

ほろこ



No. 11
2004 Spring

山 松 含
寺 南 臨

を四つにまとめられました。

苦諦——世の中は「苦」であると見極めること。

集諦——「苦」を引き起こすのは欲望と執着である。

滅諦——その欲望と執着を捨て去ること。

道諦——八正道を日々怠りなく実践すること。

こうした教えを「四諦八正道」と言い、仏教の根幹となる教義です。初めて法の輪を展開したということで、「初転法輪」の說法といわれています。この說法を聞いた五人はやがて悟りを開いたのです。

特集

お釈迦様ものがたり

初めての說法



前回お話ししましたように、お釈迦様は苦行を捨て、菩提樹の下で禪定に入り、魔王の幻術をはね返して悟りを感得されました。

最初、お釈迦様は悟りの境地を楽しみ味わうだけで、誰にも語ろうとはされませんでした。それを見かねた天の神は、お釈迦様に頼みました。

「この世には苦しみ悩む人が大勢いる。彼らのために、あなたが得た悟りの道を説いてほしい。彼らをあなたの教えによって導いてくれないか」

「私の悟りは難解で、修行を究めた者

にしか理解できないでしょう。自分の欲望にとらわれている人には伝わりません。ムダです」

お釈迦様は二度断りましたが、神の熱心さに根負けして、說法することを決意されました。

「四諦八正道」の教え

初めての說法は、サールナートの鹿野苑で修行していた五人の修行僧に対して行われました。

初転法輪

そして、お釈迦様は、悟りへの道筋

- 正見——あるがままに見きわめること。
- 正思维——正しい思考を行うこと。
- 正語——正しい言葉を話すこと。
- 正業——正しい行いをすること。
- 正命——正しい生活を送ること。
- 正精進——正しい努力を重ねること。
- 正念——あるがままの世界を観じること。
- 正定——正しい瞑想をすること。



總持寺のお彼岸

中日には貫首猊下の法話も

大本山總持寺では、彼岸会の期間中、毎日、施食会法要を行います。平日の参詣者は数十人ばかりですが、土曜・日曜・中日になると広い法堂（本堂）に入りきれないほどの方がお参りに来られます。

特に、日曜・中日には貫首大禪師猊下がお出ましになられます。法要の導師をお勤めになり、ご垂示（法話）をなされます。

関東と大阪の違い

同じ彼岸会でも、関東や東北（一部を除く）などでは、大阪や名古屋などとは法要の流れが少し違います。本堂に全員が集まり、読経の後、一斉に焼香し、参詣の方々のお名前もまとめて



臨南寺 副住職

大澤正道

読み込みます。

初めて大阪で彼岸会の法要に出席した際には、少し戸惑いました。しかし、今では、一人ひとりの方のお名前を読み込むほうが、ていねいでありがたいような気がいたします。

臨南寺では、三月二十三日（火）

午後一時から、春彼岸会法要を修業いたします。当日は平日にあたりますので、ご都合の悪い方は、事前にご回向をお受けできますので、お問い合わせください。みなさまのお参りをお待ちしております。

合掌



總持寺

カレンダーの言葉

昨年末にお配りした臨南寺のカレンダー。毎月お楽しみいただいていますでしょうか？

柔らかな書は、總持寺貫首・大道晃仙禪師の筆になるものです。禪師さまのお人柄がにじみでているような気がいたします。読み方についてのお問い合わせがありましたので、ご報告いたします。意味についても禪師さまにお聞きしましたが、「読む方それぞれのとらえ方でよろしい」とのことでした。声に出して読みながら、書を味わい、心の中で反芻（はんすう）しているうちに、何かを得ていただければ有り難いと思います。

雪
日
花



- 一月 高山堪之如来影……（高山見るに堪えたり如来の影）
- 流水應聴説法声……（流水まさに聴く説法の声）
- 瑞氣満梅花……（すいきばいかにみつ）
- 雪月花……（せつげつか）
- 一福延寿……（いつぶくえんじゆ）
- 釣月耕雲……（月に釣り雲にたがやす）
- 壺中日月長……（こちゆうにちげつながし）
- 日出乾坤輝……（ひいでてけんこんかがやく）
- 花意竹情……（かいちくじよう）
- 一味禪……（いちみぜん）
- 日々是好日……（にちにちこれこうじつ）
- 無事是貴人……（ぶじこれきじん）
- 松無古今色……（まつにここんのいろなし）

方丈禅談

生死を生死にまかす

含松山

臨南寺住職

渡邊 剛毅

この言葉は道元禪師が書き残された『正法眼蔵』の中に出てくる言葉です。正しくは「大聖は生死を心にまかす。生死を身にまかす。生死を道にまかす。生死を生死にまかす」となっています。

大聖というのはお釈迦様のことです。お釈迦様は生きることも死ぬことも、心にまかせ、身体にまかせられました。さらには、悟りを求める生き方にまかせ、ついには生死そのものにまかせられました。あながままに受け入れることの大切さを、道元禪師はこの言



葉に込められているのです。『正法眼蔵』は九十五巻もあります。当時、こういう文章は漢文で書くのが常識で、仮名文字は女性のものでした。しかし、道元禪師はあえて仮名文字で書かれました。より多くの人に伝えたいという熱意が伝わってきます。

至禱

お彼岸に写経をなさいますか？

お彼岸写経会



臨南寺では、三月十七日(水)二十一日(月)のお彼岸期間中、午前十時から午後四時までお写経していただけます。一文字書くたびに仏様一体を刻むといわれる写経は、亡くなられた方のご冥福を祈り、功德と浄福を授かります。

書き上げられたお写経はねんごろに回向させていただきます。随時、受け付けておりますので、お気軽にお申し付けください。

マトリ合同法要「若葉祭」

五月九日(日)午後一時から、マトリ合同法要「若葉祭」を行います。本堂で法話をお聞きいただいた後、マトリに移り、読経がつづくなか焼香を行っていただきます。マトリ会員でない方も参加していただけます。関心のある方はこの機会にご参加ください。

臨南寺行事予定(三〜五月)

□ 本堂ご開扉

三月十七日(水)〜二十一日(月) 午前九時〜午後三時
本堂を開放いたします。ご焼香の用意をしておりますので、お参りください。

□ お彼岸写経会

三月十七日(水)〜二十一日(月) 午前十時〜午後四時(随時)
亡くなられた方を偲びながら写経をなさいますか？



□ 春彼岸会法要

三月二十三日(火)午後一時〜三時
亡くなられた方にお経をあげ、先祖供養の法要を行います。
(※今年度よりハガキのご案内はしていません。)

□ マトリ合同法要「若葉祭」

五月九日(日)午後一時〜
読経や焼香、法話など、法要を機に皆様の親交を深めていただきます。



恒例の弁天様祈禱会

一月十五日(木)

今年も正月十五日、厄を払い福を招く弁天様祈禱会が本堂で開かれました。お坊様方による『大般若経』の転読が行われたあと、参詣の皆様が無病息災・延命長寿を祈念してお加持が修され、恒例の甘酒がふるまわれました。

美味しい甘酒の作り方

毎年二月十五日の弁天様祈禱会では甘酒を召しあがっていただいています。今年も特に好評で、作り方を教えてほしいという問い合わせが多数ありました。今年のは、副住職のお母様に教えていただきました。来年度も行いますので、ぜひお立ち寄りください。



材料 (約10人分)

もち米1合、こうじ150g、白砂糖・塩少々

- ①もち米を洗って少なめの水で炊きます。(洗ってすぐ炊く)
- ②炊き上がって30分後に、こうじとぬるま湯(ひたひた)を入れて保温にしておく。7~8時間(保温の時間は、米の量が少ないのでもっと短くても良い)こうじがつぶれるようになったら保温を止める。
- ③上記の米に水を入れて、好みのゆるさにし、砂糖を入れ(好みの甘さ)、煮立ったら塩を少々入れて味見する。砂糖はお米の甘みも出ているので入れすぎないように。



写経会に参加して

ここには別世界の時間がある。石川紀代子さん

私が写経を始めたのは、平成十三年六月からです。息子を亡くしたあと、西国三十三ヶ所の札所参りをするようになりましたが、ツアーでしたから、観光のようですっきりしませんでした。

そんなとき、臨南寺さんで写経会があると知り、すぐに申し込みました。

「般若心経」の意味も写経の形式もわからないまま、ただひたすら功德になるのではと思う気持ちだけでした。

二六六文字の「般若心経」を二文字二文字書き写すだけです。その時間は別世界で、心が静まり、何も考えず無になります。何もしてやれなかつたその後悔の思いも薄れ、気持ちが楽になって、自分自身が救われています。

これからもずっと続けます。そして、「般若心経」について勉強もしてみたいと思う今日この頃です。

観自在菩薩。
若波羅蜜多時。
五蘊皆空。度一切苦厄。
舍利子。色不異空。



「ほっと」11号

平成16年3月

編集・発行：稜伽林「ほっと」編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-711-493

TEL 06-6698-1001 FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com

編集後記

狂牛病とか鳥インフルエンザとか、奇妙な病気が流行ります。自然を破壊してきた人間への罰のような気もします。今回の内容はいかがでしょうか。ご感想をお寄せください。採用分には粗品をお送りします。お気軽に編集室までお送りください。FAXでも結構です。

お気軽にどうぞ

坐禅会

毎月二十日 午前十時～

午後一時～

献香料(お志)

早朝坐禅会

第一土曜日 午前六時三十分～

一月・八月は中止します。

写経会

毎月二十日 午前十時～午後四時

写経料/二〇〇〇円

子ども空手教室

毎週木曜日 午後七時～九時

一月/六〇〇〇円

※いずれも事前のお申込みが必要です。